

Hematoma is formed time of EVT which is useful to Bailout by Covered(Niti) STENT

Dokkyo Medical University Hospital, Japan

Kimihiko Ishimura

72歳女性。数か月前より間欠性跛行を自覚し、当院紹介受診。下肢造影 CTにて左総腸骨動脈近位部に閉塞病変を認め、同部位に対して EVT を施行した。左大腿動脈と左肘動脈からアプローチを施行し、血管内超音波(IVUS)にて血管径を測定。IVUSにて観察後 4.0x40mm のバルーンを用いて拡張した。その後、Wall STENT(8x35mm)を留置したが、STENT 外への造影剤漏出と、IVUS では血管内に血腫を認めた。バルーンによる長時間 inflation にて止血を試みるも、止血効果が得られなかった。そこで、胆道用 Covered STENT(Niti S 8.0x60mm)を Wall STENT 内に留置。その後の造影剤では漏出は認められず、循環動態も安定しているため、そこで手技を終了した。EVT 施行中に合併した血腫に対し、胆道用 Covered STENT による Bailout は安全にかつ迅速に施行でき、有用であった症例を経験した。